

1. 宮坂先生の追悼文集について

2. 実践報告

学年	教材	検討内容
5年 長谷川	「やなせたかし —アンパンマンの勇氣」	5時間の飛び入り授業の中で、今回の授業を行った。やなせたかしの「正義とは何だろう?」という問い(17段落)に着目し、その結論は何かを17段落~24段落の中で考えさせた。飛び入り授業のため、子どもたちに“変だ、おかしい”と思う言葉に着目させ、深く追求させることは難しかったが、17段落から24段落の中でどの段落に正義の結論が書かれているかの支持確認を行った結果、授業の後半の方でだんだん子どもたちの中で意見を交わす様子が見られるようになった。
6年 濱田	「ぼくぼく」	「音読」から「朗読」に変わるようにイメージを持たせた。最初の「ぼくぼく」と途中の「ぼくぼく」の違いに着目し、最初の「ぼくぼく」は「にがいにがいいまままでのことが」、途中の「ぼくぼく」は「花がさいたようにみえてくる」より、気持ちがだんだん明るい方に変化しているのではないかと考えた。 最初の「ぼくぼく」はその後の「まりをついていると」を受けており、途中の「ぼくぼく」は「むすびめがほぐされて」を受けているが、その「むすびめ」が“まりのむすびめ”を指しているのか、“心の中のひっかかりのようなむすびめ”を指しているのか、それを明確にすることは難しかった。

3. 教材解釈

学年	教材	検討内容
4年 池村	「初雪のふる日」	中心人物は「雪うさぎ」で、53段落の「うさぎたちはすっかり喜んで」の文に着目し、なぜウサギが“すっかり喜んだ”のかをその前文の小さな女の子が話した内容から考える。23段落の「わたしたちはみんな、雪をふらせる雪うさぎですからね」という文より、自分たちは雪を降らせる雪うさぎで、よもぎのおまじないを歌う者がいたら唱えさせないように邪魔をしていたが、48段落や52段落の小さな女の子の言葉より、よもぎの葉っぱのうら側が白いのは自分たちの毛(うさぎの毛)がついているからであることを知り、すっかりうれしい気持ちになった。また、その後54段落の歌では、「うさぎの白は春の色 よもぎの葉っぱのうらの色」と、歌の内容にも変化が表れた。
6年 濱田	「海の命」	一場面の3段落の「海のめぐみだからなあ」の「海のめぐみ」に着目し、ここでの「海のめぐみ」とは何かについて考えた。しかし、それは父の思想で、父が話していることであり、文中から明確な根拠を探すことは難しかった。